

連結

売上高

1兆6,710 億円
(前年同期比 $\triangle 23.3\%$)



営業損益

460 億円
(前年同期比 $\triangle 60.6\%$)



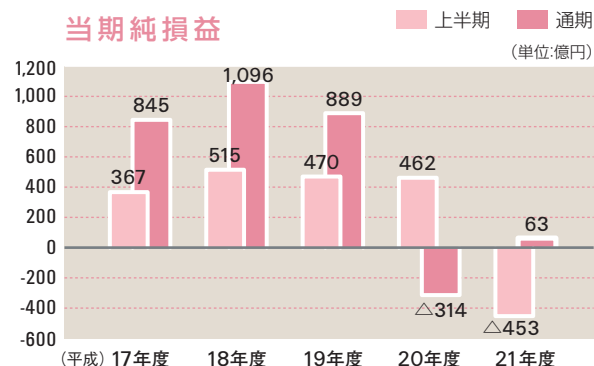
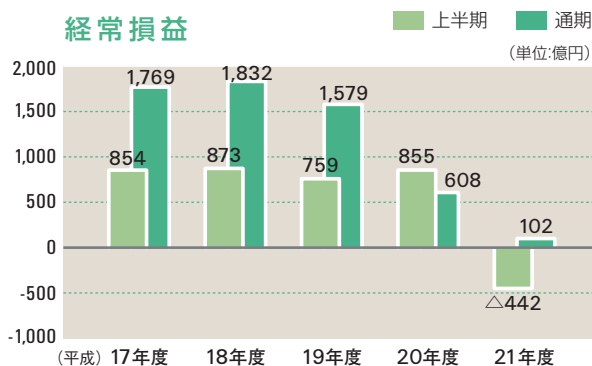
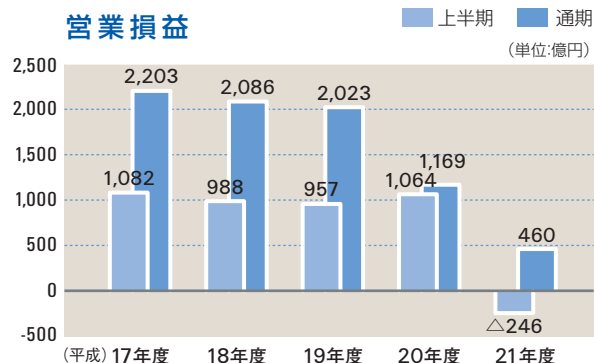
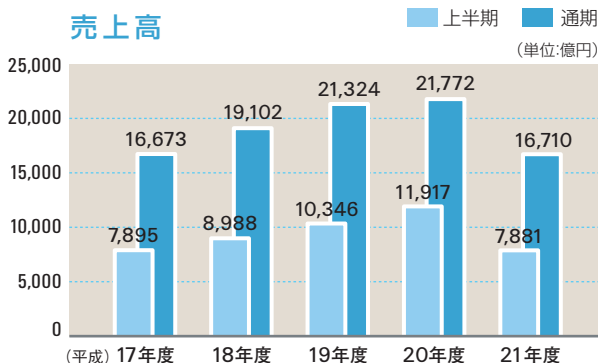
経常損益

102 億円
(前年同期比 $\triangle 83.1\%$)



当期純損益

63 億円
(前年同期比 $-$)



(表示金額は、単位未満の数字を切り捨てております。)

当期の概況

当期のわが国経済は、国内外における景気対策の発動や在庫調整の進展、海外経済の改善を背景に、持ち直しに転じました。また、海外においても同様に、中国で景気は回復したほか、米国や欧州においても夏場以降持ち直しに転じました。

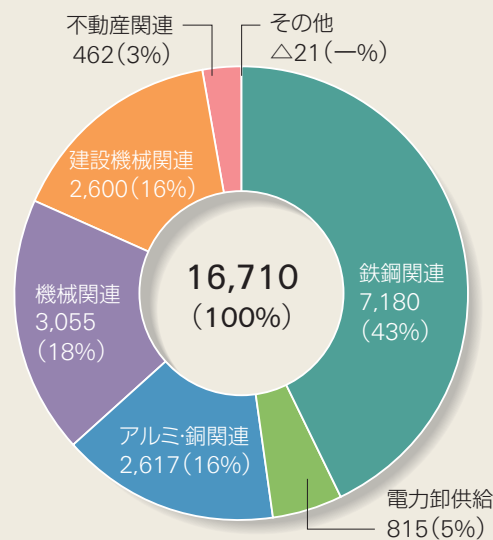
しかしながら、世界経済全体としては、前期の水準と比べると、落ち込んでおり、景気の低迷が続きました。

このような経済環境のもと、当社グループにおいては、鉄鋼関連事業の鋼材やアルミ・銅関連事業を中心に、第2四半期以降、販売数量は回復したものの、当期の数量は、年度前半まで極めて高水準に推移した前期の水準には届きませんでした。

この結果、当期の連結業績は、売上高は前期に比べ5,062億円の減収の1兆6,710億円となり、営業利益は、総コストの改善活動に注力したものの、前期に比べ709億円減益の460億円、経常利益は、前期に比べ506億円減益の102億円となりました。また、多額の特別損失の計上や繰延税金資産の取崩しを行なった前期と比べると、当期純損益は、377億円改善し、63億円の利益となりました。

単独業績につきましては、売上高は前期に比べ3,684億円減収の9,909億円、営業利益は592億円減益の11億円、経常損益は472億円減益の128億円の損失となりました。一方、当期純損益は、税効果調整の影響などから28億円の利益となり、前期に比べ321億円改善しました。

事業別売上高(平成21年度) (単位:億円)



(注)「その他」には「電子材料・その他の事業」の売上高436億円と事業間の内部売上高等の消去額△457億円が含まれておりますので、上記円グラフ「その他」の金額は△21億円となっています。

事業別の概況 (枠内の数字は売上高を記載しています)



鉄鋼関連事業

7,180 億円
(前年同期比 △29.8%)



鋼材出荷数量は回復に転じましたが、全般には前期を下回りました。

- 自動車、電機向け需要は夏場以降回復に転じ、中国を中心とした海外需要も増加したものの、回復途上にあり、鋼材出荷数量は前年度比では減少。

- 鋼材販売単価は原材料価格の値下り影響から下落。

- 鑄鍛鋼品の売上高は前期を下回る。

- 溶接材料やチタン製品の需要は低迷し、前期を下回る。

- 営業損益は、固定費削減などに取組むも、243億円の損失。



神戸製鉄所 第5連続鑄造設備



電力卸供給事業

815 億円

(前年同期比 +1.1%)



安定操業を継続しています。

- 営業利益は減価償却費が減少し、前期比30億円増益の203億円。



神鋼神戸発電所 石炭サイロ



アルミ・銅関連事業

2,617 億円

(前年同期比 △31.0%)

自動車、液晶・半導体製造装置
向けの需要が回復に転じました。

- 飲料用アルミ缶材の販売量は冷夏の影響を受け減少。
- 自動車向けアルミ圧延材は環境対応車種の販売好調により回復。
- 液晶・半導体製造装置向けも回復。
- アルミ圧延品全体の販売量は回復途上にあるため、前期を下回る。
- 銅圧延品の販売量は、板条は前期を上回るも、銅管は、エアコン需要の低迷で減少。

- 販売価格に転嫁される地金価格が下落したこともあり、売上高は前期比減少。
- 営業損益は前期比344億円改善し75億円の利益。

自動車サスペンション用
アルミ鍛造部品

機械関連事業

3,055 億円

(前年同期比 △7.7%)

金属加工機械や還元鉄プラント
の一部案件で、回復の兆しがあります。

- 自動車および石油精製、石油化学業界の設備投資が低迷し、関連製品の受注が減少。
- 金属加工機械や還元鉄プラントの一部案件で、回復の兆し。
- 結果、国内受注高は前期比1.6%増の1,304億円、海外向けが前期比42.1%減の637億円、事業全体の受注高は前期比18.6%減の1,942億円。
- 期末の受注残高は2,407億円
- 売上高は、大型案件の売上が集中した前期比では減少。
- 営業利益は前期比5億円減益の290億円。



大型圧縮機試運転設備



建設機械関連事業

2,600 億円
(前年同期比 △21.9%)



油圧ショベルは、中国向けが好調でしたが、クレーンは、世界全域で低迷しました。

- 油圧ショベルについては、中国での販売台数が、内陸部を中心に前年同期を大幅に上回る。国内、米国、欧州向けの販売台数は更に減少。
- クレーンの販売台数は、比較的堅調だった北米向けが在庫調整などの影響により前年同期比減少。国内、中東向けも前年同期を大きく下回る。
- 営業利益は前年同期比33億円減益の79億円。



ハイブリッドショベル 「SK80ハイブリッド」



不動産関連事業

462 億円
(前年同期比 +24.5%)



分譲マンションの引渡しが順調に推移しました。

- 不動産販売部門で、分譲マンションの引渡しが順調に推移したことなどから、売上高は前年同期比で増加。
- 営業利益は、前年同期比12億円増益の31億円。



ジークレフ塚口富松町



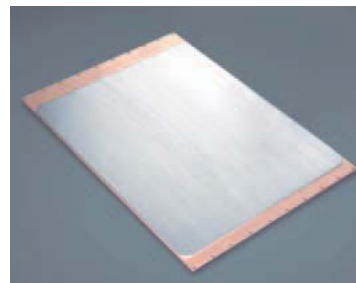
電子材料・ その他の事業

436 億円
(前年同期比 △20.9%)



試験分析事業の需要が低迷し、配線膜用ターゲット材の販売量も減少しました。

- 試験分析事業において、輸送機業界向けなどを中心に需要が低調に推移。
- 液晶配線膜用ターゲット材も販売価格、販売量ともに減少。
- 営業損益は前年同期に比べ33億円減益の2億円の損失。



ターゲット材